

東札幌6条団地自治会で開催している移動販売を紹介するまも!!



毎月開催!「移動販売(水曜広場)」~買い物が少しでも楽になりますように~

東札幌6条団地自治会では、団地内での出張販売(水曜広場)を毎月最終水曜日13:00~14:00の間で開催しています。

団地からスーパーまでは約20分(徒歩)かかるため、高齢者にとっては重い食材の購入が大変だと考え、約3年前より野菜や果物などを販売している「Fruit Dog」さんの協力を得て開催されています。



いつもニコニコ現金払い!

この旗が目印です!

8月からは「焼き菓子とパンの店 ぱる」「どんぐり」さんの協力もあり、焼き菓子やパン、雑貨などの販売もされています。URコミュニティの方も参加されており、袋詰めなどのお手伝いもされていました。「お休み処」では、買い物ついでに会話を楽しむ方々の姿もあり、久々の再会を喜ばれていました。その他にも、食材を自宅まで運ぶのが大変な方については、ボランティアさんが自宅まで運んでいる様子もありました。

コロナ禍でも人と人は繋がっていることを感じる事ができた貴重な1日でした。みなさんの活動をこれからも応援しています!



全粒粉使用!

自宅まで荷物を持ちます!

白石区・地区 福祉のまち推進センター 活動交換会



今年は、「東日本大震災」から10年という節目を迎えました。この10年間には、「北海道胆振東部地震」や「熊本地震」等の地震以外にも、大雨や豪雪等による「自然災害」が頻発・激甚化するなど、防災・減災対策の重要性が高まる中、被害を最小限にとどめるには、一人ひとりの日ごろの備えはもとより、地域での支え合いが大切となります。

特にコロナ禍の中、これから迎える冬期間において災害が発生すると防寒対策など他の季節とは

違った様々な対策が求められることから、冬季災害を想定した日頃からの備えや心構えを学び、地域での防災意識の向上を図ることを目的に、11月15日(月)に白石区民センター区民ホールにて「白石区・地区福祉のまち推進センター活動交換会」を開催し、地域関係者など137名の方にご参加いただきました。

当日は、冬季災害の専門家である日本赤十字北海道看護大学看護薬理学領域教授の根本昌宏氏から「コロナ禍における冬季災害の備えと取り組み」というテーマで講演をいただきました。

根本氏からは、熊本地震の例から、高齢者や障がい者の方はもちろん、子どもや女性の方が災害弱者と言われるような立場に立たされることがあり、災害による直接的な被害者だけではなく、その後の避難生活で、多くの人が苦しんだり亡くなった人たちがいるとのお話がありました。そして、冬の避難生活では、寒さ、食べもの、トイレ等の問題が大きいこと、また、北海道では冬の災害の経験に乏しいことなどが指摘されました。その上で、実際に学生と行った冬期の避難生活体験や熊本地震における実例を交えて、低体温症の発症、ストレスによる循環器の疾患、子どもの4%を占めるアレルギーへの対応、女性に多いエコノミークラス症候群、一酸化中毒の危険がある車中泊などの冬の避難生活で懸念される様々な問題への指摘がありました。最後にもしものときのために停電対策、暖房対策、食事対策、トイレ対策についてなど想像力を膨らませて自分でできることや家族でできることを意識して欲しいというお話がありました。

また、白石区保健福祉部保健福祉課活動推進担当係長の中村勇太氏より菊水1条1丁目町内会の取り組みも交えながら、白石区内の避難行動要支援者名簿の取得状況についての説明がありました。

参加者からは、「冬の寒さの中でどう命を守っていくかを考えないといけない」「避難生活における様々なリスクについて理解できた」などの声が寄せられていました。



防災に関する出張講座のご案内

防災の取り組みは、継続的に防災知識の普及を行っていくことが重要です。本会では、防災に関する出張講座を無料で実施していますので、申込みを希望される団体は本会までご連絡願います。

内容

- ・講話『災害時のための地域支え合い講座』
- ・防災ゲーム『クロスロードゲーム』
(クロスロードとは「別れ道」の意味)

司会者から与えられた災害対応について参加者一人ひとりが自分の問題として捉え、参加者同士の異なる意見をきっかけに災害対応の問題点や災害対策を考えるゲームです。

日時 基本的には要望頂いた日時(土・日も可)で実施をさせていただきます。※時間は1時間程度です。



▲クロスロードゲームの見本

白石区内で防災に関する取り組みに積極的な地区を紹介します！

菊水地区福まちの取り組みについて

菊水地区の令和3年度の基本理念及び基本方針

○基本理念

「みんなが支え合い 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる まちづくり」

○基本方針

「障がいのある方・支援が必要な方をみんなで支える風土づくり」



防災に関する取り組みを行うことになったきっかけ

平成30年に発生した「北海道胆振東部地震」を契機に、災害時のことを考えると支援の対象者は、高齢者だけではなく、支援を必要としている様々な方も含めるべきではないかとの意見が多く寄せられました。そこから、「見守り」を地域みんなの共通の話題である「防災」というツールを活用して、各町内会が「災害時避難行動要支援者名簿」の取得に向けて啓発活動（研修・説明会）、支援活動（申請）、福祉サポーター育成活動を進める方針となりました。

令和元年度には、地区社協、地区福まちが一体となって運営できる組織体制に変更し、毎月の福まち定例会などで、取得状況や取得後の課題について情報共有と議論を行っています。



災害時避難行動要支援者名簿の取得とそれに伴うその他の活動について

< 取得状況 > 菊水地区の47単位町内会中37単位町内会（名簿記載者387名）が取得していますが、未取得町内会に継続して取得に向けて啓発活動を行っています。

< 支援者の育成 > 現在支援者348名で、研修を受けて頂いた方に「菊水地区福祉サポーター証」をお渡ししています。

< 災害に備えて > 災害の際には、行政だけの対応では不十分であり災害時の助け合いにも視野を広げ、地域で自分たちを守れるように、白石区と連携して住民組織参加型「基幹避難所運営マニュアル」も作成し、東橋小学校で避難訓練を行う予定で進めています。



避難所運営検討会の様子



避難所開設運営マニュアル説明会の様子

医療法人重仁会グループ

見学申し込み、入居相談、資料請求などお気軽にお問い合わせください。

ご夫婦
居室あり

短期契約
あり

訪問介護

見学随時
受付中

デイサービス

居宅介護支援
事業所併設



サービス付き
高齢者向け住宅

モーニング

札幌市白石区本通14丁目南5番25号

☎011-868-0001

<http://www.morning-sapporo.jp/>



「白石区民生委員児童委員協議会活動パネル展」 を開催しました

区民の皆さんに民生委員・児童委員の存在や活動を知っていただき、理解を深めてもらうことを目的に、10月15日（金）に白石区複合庁舎地下2階まちづくりイベント広場で活動パネル展を開催しました。

例年は、5月12日の「民生委員・児童委員の日」に合わせて、地下鉄白石駅周辺で街頭啓発活動も行っておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催日を延期し、活動パネルの展示と相談・情報提供コーナーの実施のみとしました。

民生委員・児童委員は、厚生労働大臣から委嘱され、地域住民の一員として、それぞれが担当する区域において、住民の生活上のさまざまな相談に応じ、行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を果たすとともに、高齢者や障がい者世帯の見守りや安否確認などにも重要な役割を果たしています。

民生委員・児童委員の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



福祉協力校の活動紹介

本会では、区内に所在する小学校・中学校・高等学校を対象に福祉活動への理解を深めていただくことを目的とした「社会福祉協力校事業」を実施しています。令和2年度からは「札幌市立北都中学校」を指定し、昨年度は生徒会の皆さんの活動について紹介させていただきました。今回は、令和3年9月9日に1年生全生徒を対象とした「福祉体験学習」の様子をご紹介します。

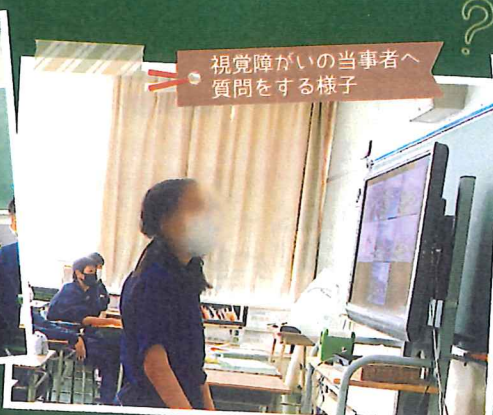
福祉体験学習の内容 オンライン(ZOOM)開催

- ①白石区第1地域包括支援センターによる「認知症サポーター養成講座」
- ②障がい当事者からのお話（視覚・聴覚の障がい）

例年は、白石第1地域包括支援センターによる「認知症サポーター養成講座」と、障がい当事者講師によるお話の後に、車いすや片麻痺疑似体験セットなどの福祉機材を用いて障がいに関して学んでいただきましたが、今年は緊急事態宣言の発令期間中だったため、すべてオンラインによる学習に切り替えて実施しました。今回の学習を通して、生徒の皆さんには認知症に関する基本的な知識や、障がいに対する考え方や捉え方を学んでいただくことができました。本会では、引き続き、福祉活動に積極的に取り組む学校や団体を応援しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



聴覚障がいの当事者からの
お話の様子(手話体験)



視覚障がいの当事者へ
質問をする様子



「認知症サポーター
養成講座」の様子